

（仮称）彦根総合運動公園整備基本構想の策定および 公園整備基本計画（案）の検討状況について

1 公園整備基本構想の策定

（仮称）彦根総合運動公園整備計画検討懇話会で公園整備の基本的な考え方や施設整備計画を検討するとともに、彦根市と連携しながら、地元自治会等への説明や県民意見の募集なども行い、平成 27 年 3 月末に基本構想を策定した。

（1）検討懇話会での主な意見等

- ・住民参加による公園づくりが重要。
- ・国体開催だけでなく、身体障害者スポーツ大会も視野に入れるべき。
- ・第 1 種陸上競技場の建設と世界遺産登録がともに成功するようよく考えて進めてほしい。
- ・間伐材の利用による環境への配慮も重要。
- ・防犯の観点からの公園整備の考え方も整理が必要。

（2）自治会長説明会等での主な意見等（自治会長説明会 3 回、住民説明会 2 回、地権者説明会 1 回）

- ・周辺道路の交通渋滞への対策、小学校の子どもたちの安全対策、工事中や供用後における騒音等への対策等に配慮して公園を整備してほしい。
- ・国体後の有効活用を考えると、気軽に使用できることが大切。
- ・景観との調和の観点から施設の見た目も大切。
- ・皆に褒めてもらえ訪れてもらえるような施設を望む。
- ・観光の要素を取り入れて施設整備すべき。
- ・防犯対策を検討してほしい。
- ・市民体育センターがなくなるので、避難場所の確保について配慮してほしい。

（3）県民意見の募集（実施期間：平成 27 年 1 月 16 日（金）～2 月 16 日（月））

- ・下水処理場のエネルギーを有効利用できないか検討してはどうか。
- ・公園内の駐車場は彦根城の観光用として兼用して利用すれば収益をあげられる。
- ・金亀公園と（仮称）彦根総合運動公園は連携して利用すべき。

2 公園整備基本計画（案）の検討状況

（仮称）彦根総合運動公園整備計画検討懇話会で導入施設の種類や規模等を検討した。

（1）主な意見等

- ・スポーツをしない人々も憩い集えるような施設とすべき。
- ・第 3 種陸上競技場は、学生や社会人が利用しやすいように夜間照明を整備した方がよい。
- ・ゆとりのある公園づくりが重要。
- ・緑化が重要。例えば、植樹のほか、駐車場自体の緑化も重要。

(2) 公園整備基本計画(案)

ア) 導入施設

a) 第1種陸上競技場

- ・トラックは400m×9レーンで、フィールドはサッカーなど多目的利用可能
- ・収容人員は約15,000席の固定席に芝生席を加え約20,000人

b) 第3種陸上競技場

- ・トラックは400m×8レーンで、フィールドはサッカーなど多目的利用可能
- ・管理棟や器具庫を整備
- ・夜間照明設備の整備について検討

c) 駐車場・駐輪場

- ・駐車場は普通車換算で約1,100台分、駐輪場は約380台分を整備

d) その他運動施設

- ・庭球場12面、緑の広場を整備
- ・野球場は存置

⇒資料3：基本計画図のとおり

イ) 施設整備上の主な課題の整理

a) 地盤対策

- ・課題：計画地が軟弱地盤であることから、陸上競技場(第1種、第3種)のトラック・フィールド部分の地盤対策が必要。
- ・対策：深層混合処理工法と表層混合処理工法を組み合わせる工法を採用。
なお、陸上競技場の建物部分は建築基礎の設計段階で別途検討。

b) 建物の高さ

- ・課題：計画地が風致地区内にあることから、建物の高さ規制(15m)への対応が必要。
- ・対策：陸上競技場のスタンド屋根を短くする、スタンドの地盤を掘り下げる、スタンドの各階層の諸室配置を見直すなど、第1種陸上競技場の高さを抑制する方法を検討した。
なお、今後の建築設計の段階で、より具体的に建物の高さを抑制する工夫を検討。

c) 景観への配慮

- ・課題：彦根城の世界遺産登録に向けた取組への配慮が必要。
- ・対策：公園の外周に緑地緩衝帯を整備し、園内にも多くの植栽を計画。
なお、今後の建築設計の段階で、さらに建物の形状や意匠、色彩などを検討。

(3) 公園整備基本計画の策定スケジュール

- ・今年7月中を目途に公園整備基本計画を策定予定

基本構想の背景

- 県内には「国民体育大会施設基準」に適した施設がなく、開・閉会式場を兼ねる陸上競技場（以下「主会場」という。）の確保が喫緊の課題。
- 平成 26 年 5 月、第 79 回国民体育大会滋賀県開催準備委員会において、「日常性」「将来性」「地域への貢献」「スポーツの推進」の視点から総合的に評価され、主会場が滋賀県立彦根総合運動場（滋賀県彦根市松原町地先）に決定。
- 現在の彦根総合運動場を主会場の施設基準を満たす第 1 種陸上競技場を備えた都市公園として再整備するため、公園整備の基本的な方向についての外部有識者による公園整備計画検討懇話会での議論を踏まえ、本県の考え方を（仮称）彦根総合運動公園整備基本構想（案）として整理。

公園のイメージ

- ◆**体力・健康づくり、夢育の場**
 - ・日常的に気軽にスポーツを楽しめる。
 - ・子どもたちがスポーツを「する」「みる」「支える」ことにより夢を育てる。
- ◆**多様な主体の交流の場**
 - ・スポーツを「する」「みる」「支える」といった機会を通じ人と人が交流する。
 - ・コミュニティの形成や活動の輪が広がる。
- ◆**歴史・文化などとの触れ合いの場**
 - ・歴史、文化、地形の変遷などの地域特性や自然に触れ、元気になる。
 - ・地域のにぎわいへとつながっていく。

公園整備のポイント

- ・スポーツ拠点としての魅力向上
- ・交通アクセスの良さを活用
- ・周辺住環境への配慮
- ・軟弱地盤の対策
- ・伝統的な街並みや自然・歴史文化資源への配慮
- ・観光・レクリエーション系の拠点
- ・すべての県民が身近にスポーツを楽しむ
- ・多様な人々が日常的に利用可能
- ・将来にわたって多目的に利用可能
- ・防災機能を含めた多様な機能
- ・環境への配慮
(自然再生可能エネルギーの活用)
- ・ユニバーサルデザインの導入
- ・国体後を見据えた適正規模での整備
- ・民間活力の導入
- ・敷地の拡張
- ・観光名所などとの連動による地域経済の活性化
- ・将来のJリーグ対応に向け拡張の可能性に配慮
- ・補助陸上競技場、周辺駐車場、公共空間などを活用した国体主会場の施設設計
- ・関係法規制への対応

公園整備の基本的な考え方

県民のスポーツ拠点として機能を強化するとともに、世代をこえて人々に長く愛着を持って利用される多様な機能を備えた公園として、彦根城をはじめとする周辺の景観などと調和を図りながら再整備します。

A：国体開催を契機とした県民のスポーツ拠点としての機能強化
交通アクセスの良さを活かして、県民のスポーツ拠点として整備を行い、日常的にスポーツを楽しむことができる環境づくりに取り組む。また、周辺敷地を確保し施設を再整備する。

- 主な施設：第1種陸上競技場、第2種陸上競技場（第1種陸上競技場の補助競技場）、野球場（現有施設の存置）、サッカー場（公園内に分散配置）を整備
- その他施設：例えば、庭球場、多目的広場、芝生スペース、休憩所、ジョギングコース、緑地緩衝帯などの整備について、利用状況や競技団体などの意見・要望を踏まえ検討。
- 現スイミングセンターは他所での整備を検討。スポーツ会館（宿泊施設）は整備しない。

B：国体開催後も世代をこえて人々に愛着をもって利用される多様な機能を備えた公園整備
だれもが気軽に、そして安全に安心して利用でき、健康づくりに寄与する公園を整備する。また、環境に配慮し、防災機能の強化を図るとともに、観光資源や地場産業との連携による地域活性化に寄与する公園整備に向けて住民参画のもと取り組む。

- 休憩・交流：地域の人々が日常から気軽に利用できる広場、緑の中の休憩空間などの整備
- レクリエーション、健康づくり：様々な世代の人たちが日常的に安全に利用できる心身の健康づくりの場、自然や季節を体感できる散策路・ジョギングコースなどの空間を整備
- 防災：大規模災害時の広域陸上輸送拠点・広域物資拠点などの役割を果たすための搬出入スペースを確保するなど、非常時の防災拠点となるよう整備
- 環境：間伐材等の利用、再生可能エネルギーの活用、保水性舗装や雨水貯留など、環境に配慮した施設整備とともに、これらの取組を通して美しい環境デザインを備えた学びの場となるような施設を整備
- ユニバーサルデザイン：段差のない園路や緩やかで無理のない勾配の採用、車いす使用者や乳幼児連れの人が利用できるトイレの設置など、すべての人が安全に安心して利用できる公園として整備
- 地域活性化：地域資源の利用による地域の活性化、周辺観光地や歴史などの情報発信

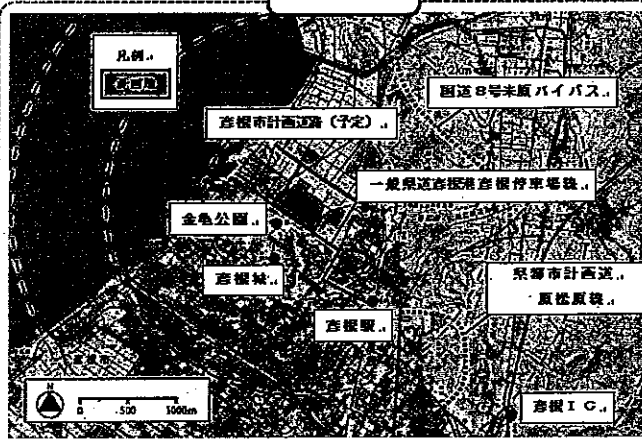
C：彦根城をはじめとする周辺の景観に調和した公園整備
世界遺産登録を目指す彦根城など歴史的・文化的な景観に調和した公園を整備する。また、公園整備にあたり、周辺の住環境に配慮した施設計画に取り組む。

- 彦根城へのシンボル軸：「国宝彦根城」を正面にしたシンボル軸の形成
- 歴史性を踏まえた施設づくり：城下町や宿場町の伝統、旧松原内湖や百間橋などの歴史的背景を踏まえた次世代につながる地域の誇りとなるよう施設整備に配慮
- 緑化推進：陸上競技場などの圧迫感や、生活環境への影響の緩和のため、植樹による緑化に配慮
- 自然素材の活用：滋賀県産木材などの自然素材・地域資源を活用し、地域の風土に調和した施設を整備
- 住環境に配慮した施設設計：施設整備に伴う騒音、振動などによる周辺の生活環境への影響を最小化、安全で住みよいまちづくりの観点で踏まえ関係機関と協議

ABCより

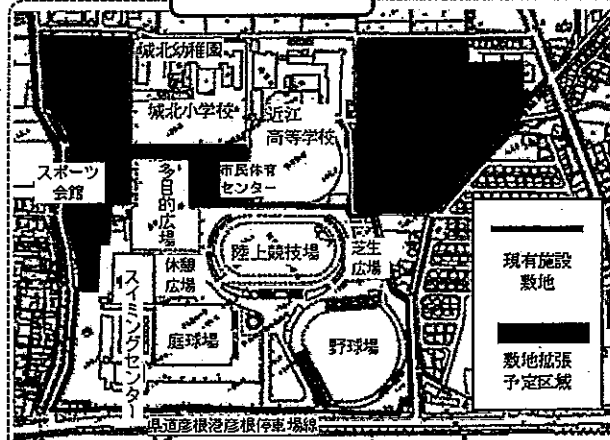
現有施設敷地(約 14ha)と隣接地約 8ha を加え、全体約 22ha まで敷地を拡張

位置図



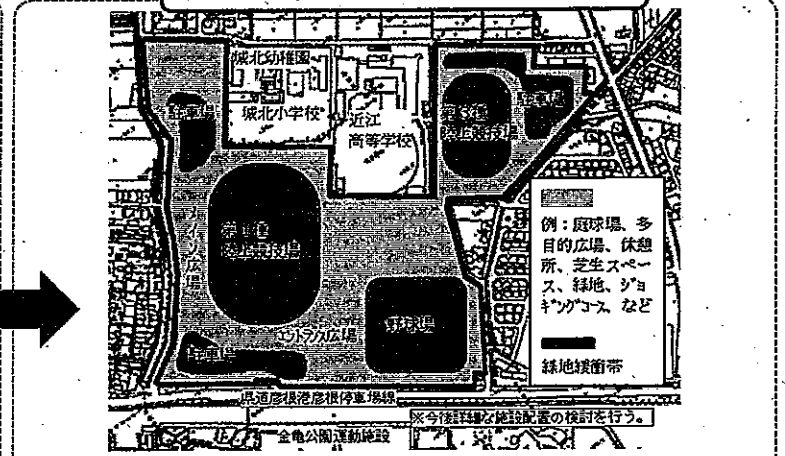
- ◆交通アクセス
- 彦根駅から計画地まで約1.6km、車約4分、徒歩約20分
 - 彦根ICから計画地まで約2.9km、車約7分
- ※周辺では、国道8号の米原バイパス、(県都市計画道路)原松原線の2路線の整備計画のほか、彦根市において計画地の北側、西側で2路線の道路整備が検討されている。
- ◆周辺の土地利用
- 計画地周辺は干拓による埋立地。
 - 計画地の東側・西側・南側は道路河川に隣接し、住宅地や彦根城・金亀公園が立地。北側は幼稚園、小学校、高校、市体育館が立地のほか、農地が広がり、一部宅地が点在。

現有施設



- 敷地面積：14ヘクタール
- 第2種陸上競技場：400m×8コース、6,000人収容
- 野球場：10,000人収容
- 庭球場：競技用砂入り人工芝12面、500人収容
- スイミングセンター：屋外50mプール、25mプール、飛び込みプール
- 多目的広場：陸上競技場のサブグラウンド、各種スポーツ大会に使用
- スポーツ会館(宿泊可能)：洋室8室(8人部屋)、和室1室(13人部屋)
- 駐車場：680台駐車可能
- その他：休憩広場、芝生広場、園路、エントランスなど

施設配置図(ゾーニング図)案



- 敷地面積：22ヘクタール
- 第1種陸上競技場：400m×9レーン、フィールド内はサッカーなど多目的利用可能、収容人数：15,000~20,000人、(風向、日照、眺望などの観点から南側道路に対し垂直に配置)
- 第3種陸上競技場：400m×8レーン、フィールド内はサッカーなど多目的利用可能
- 野球場：現有施設を存置(10,000人収容)
- 駐車場：公園内に分散配置
- その他施設：例えば、庭球場、多目的広場、休憩所、芝生スペース、緑地(周辺住宅や学校施設との間に緑地緩衝帯を配置、公園内に植樹し景観保全に配慮)、ジョギングコース(健康づくり)、エントランス広場(彦根城への眺望を確保)など

公園整備スケジュール

懇話会での検討、地元自治会への説明、県民のみなさんからの意見募集などを経て公園整備基本構想を策定、その後、各施設の内容などをまとめ、公園整備基本計画を策定する予定。その上で、次のスケジュールをもとに公園整備を着実に進めていきます。

作業項目	H26年 (2013)	H27年 (2014)	H28年 (2015)	H29年 (2016)	H30年 (2017)	H31年 (2018)	H32年 (2019)	H33年 (2020)	H34年 (2021)	H35年 (2022)	H36年 (2023)
都市公園計画・設計	基本構想・基本計画 ～基本設計～実施設計										
基盤整備ほか	既存施設保全・整備工事 その他公園施設工事、地盤対策工事										
施設整備	施設設計				建築工事						

今後の主な課題

- 関係法規制などへの対応：地盤の高さや建物の構造、デザインなどの工夫により周囲の景観の負担にならないよう第1種陸上競技場の高さを検討。公園整備に適した用途地域の変更など、彦根市と協議。軟弱地盤への対策の検討。
- 景観への配慮：施設の配置計画や施設の規模、デザイン、色彩などの検討過程で景観や眺望に配慮。陸上競技場などの建物の圧迫感を軽減するため、公園一帯を樹木で覆うなどの工夫を検討。彦根城の世界遺産登録への取り組みに配慮し、建物の形状や意匠、色彩などを検討。
- 適正規模の検討：適正規模による施設整備の検討
- 交通計画の検討：彦根市が検討している計画地周辺の道路改修などの計画との整合。国体開会式時の交通渋滞を回避するため道路管理者・警察などと協議。
- 地域住民の理解：公園整備や敷地拡張に関して、地域住民の皆さんや地権者の皆さんに説明し理解を得よう努める。
- 企業との連携の取り組み：ネーミングライツの導入をはじめ、施設整備や管理運営の面で民間のノウハウや創意工夫の活用を検討。
- 住民参画と地域づくり：国体終了後のまちづくりにもつながるよう、地域に親しまれる公園づくりに向けた住民参画のあり方について検討。記念植栽、手形陶板など住民の皆さんが気軽に参加でき、愛着を持って施設を利用できる取り組みを検討。美化活動に対するサポーターを募るなど公園運営への住民の皆さんの参画を進める取り組みを検討。

資料 2

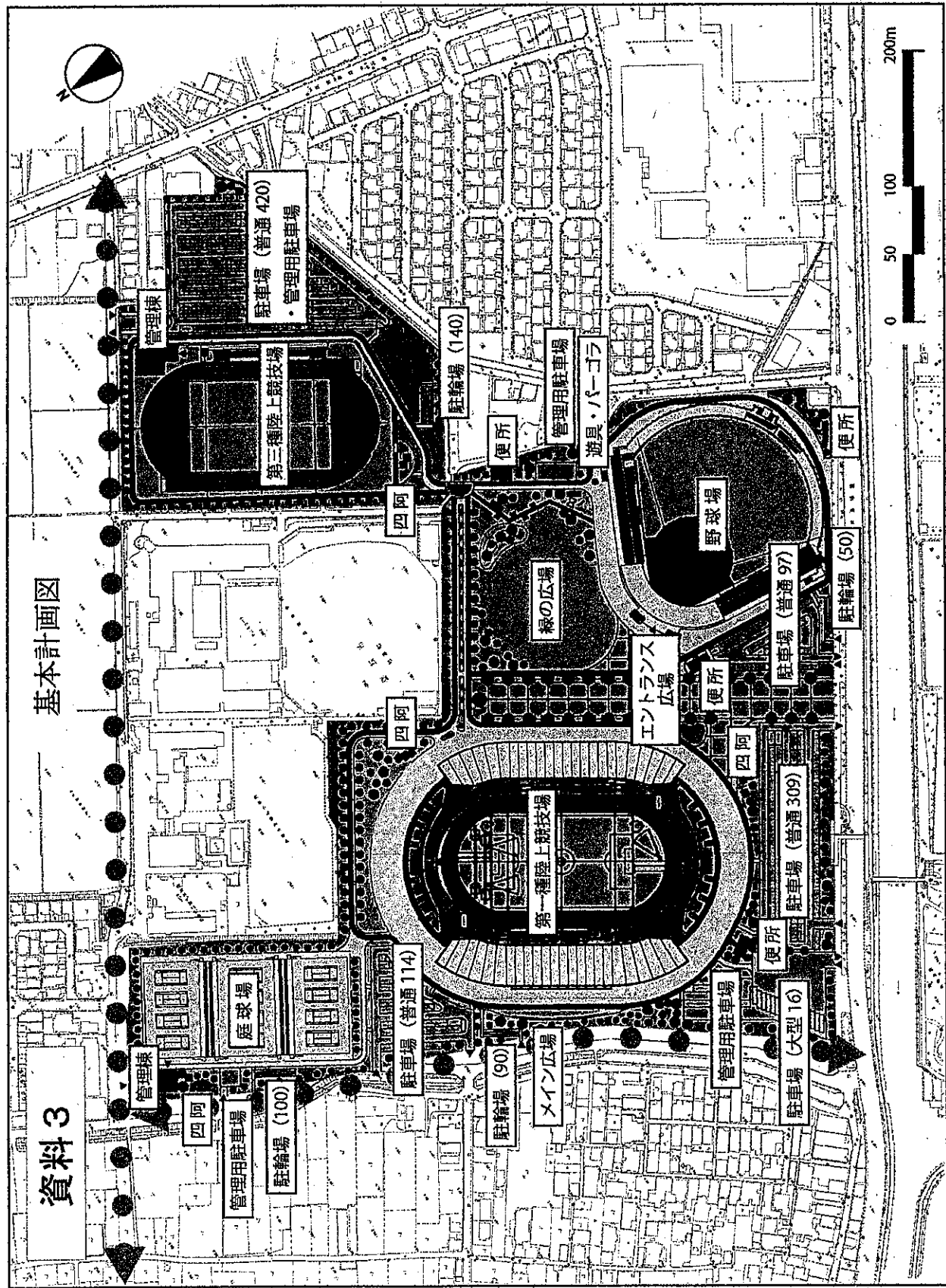
(仮称)彦根総合運動公園整備計画検討懇話会 委員名簿

(順不同:敬称略)

選 出 区 分	機 関・団 体 名 お よ び 役 職 名	氏 名
利 用 者 (学 校 関 係) (学 校 関 係)	公益財団法人滋賀県体育協会 (さざなみスポーツクラブ マネージャー) 副会長	河上 ひとみ
	一般財団法人滋賀陸上競技協会 専務理事	坂 一郎
	滋賀県レクリエーション協会 生涯スポーツ 推進部長	西條 智晴
	滋賀県障害者スポーツ協会 理事	原 陽一
	滋賀県健康推進員団体連絡協議会 副会長	山田 和代
	滋賀県高等学校保健体育研究会 (県立八幡商業高等学校 校長) 会長	辻井 美恵子(～H26)
	滋賀県高等学校保健体育研究会 (県立守山北高等学校 校長) 会長	川嶋 典明(H27～)
産 業・経 済 関 係	《経済・経営》 滋賀銀行営業統轄部地域振興室 室長	植西 正寿
	《観光》 公益社団法人彦根観光協会 会長	一圓 泰成
	《文化・出版》 サンライズ出版株式会社 代表取締役	岩根 順子
学 識 経 験 者	《ランドスケープ、防災》 立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科 准教授	武田 史朗
	《景観、建築》 滋賀県立大学環境科学部 環境建築デザイン学科 教授	松岡 拓公雄
	《歴史・文化》 滋賀県立大学人間文化学部 地域文化学科 教授	濱崎 一志
	《スポーツ社会学、女性とスポーツ》 びわこ成蹊スポーツ大学 准教授	佐藤 馨
	《地方財政、地域経済》 龍谷大学政策学部 教授	只友 景士
行 政 関 係	彦根市都市建設部 部長	山田 静男(～H26)
	彦根市都市建設部 部長	下山 隆彦(H27～)
地 域 団 体 【 特 別 委 員 】	松原二丁目第2部自治会 前会長	岡田 和男
	大洞自治会 会長	北村 收

資料 3

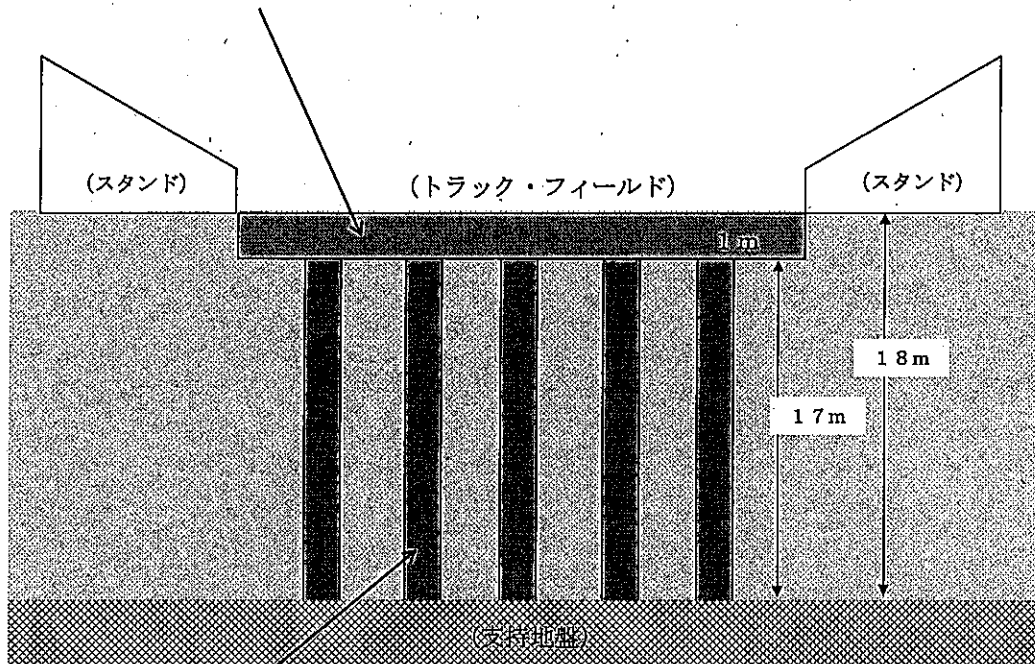
基本計画図



陸上競技場の地盤対策

表層混合処理工法

【セメント系固化材により原地盤の表層部分を固化する工法】



深層混合処理工法 (改良率10%~20%)

【セメント系固化材と原地盤の軟弱土を攪拌・混合し柱状に固化する工法】

地盤対策のイメージ
(第1種陸上競技場のトラック・フィールド部分)
※スタンドの下は建築設計で別途検討